



# 秋剣連

発行  
 秋田県剣道連盟  
 〒010-0914  
 秋田市保戸野千代田町14-12  
 SAKAEビル 2F-B  
 TEL 018-883-0680  
 FAX 018-883-0663  
 E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp  
 http://www.18.ocn.ne.jp/~axtkendo/



秋田わか杉国体

## 『完全優勝』成る!! - 4種別完全制覇 -



### 完全制覇の快挙を成し遂げて



秋田県剣道連盟会長

長谷部

誠

10月3日、閉会式を終え、各県選手団が帰路についた後、男鹿市総合体育館のフロアーに、連盟役員をはじめ、成年男子監督兼大将の鎌田耕平らが次々と宙に舞った。期せずして起こった歓喜の洞上げであった。

苦しい戦いが続いた。少年男子決勝は、インターハイ優勝（龍谷高校）の強豪佐賀県。大将佐々木が激闘の末、一本勝にて優勝を決めた。少年女子は、準決勝（熊本）、決勝（福岡）とも大将戦で大将神坂が凌ぎ、少年男女の優勝が決まった。続く成年女子においても準決勝・決勝が大将戦。ふるさと選手の堀川が鮮やかに決めた。ここで本県の剣道総合優勝は決まった。残るは成年男子。少年男女・成年女子の優勝を目の当たりに勝負への執念が見えた。成年男子で最も苦しかった2回戦は、警視庁選手を主軸とする東京戦。次鋒土田が全日本選手権者の内村と延長戦、続く辻村が32分に及ぶ激闘。後がない副将戦、これもふるさと選手の貝田が見事に大将に繋いだ。大将鎌田の戦い振りは今だ目に浮かぶ名勝負。一瞬の隙を引き面が見事に決まった。手に汗握る一戦に会場大声援が起った。東京戦を契機に成年男子の勢いにつき、目標の四種別完全優勝が達成された。

選手はもちろんのこと、監督・コーチ・スタッフ、開催を支えた男鹿市、大会運営を担った連盟役員・会員、ご指導を戴いた県体育協会、そして何よりも惜しみない応援を戴いた県民の皆様からの感謝を申し上げる次第であります。（敬称略）

# お祝いの言葉

## 瞬息の一撃

(財)全日本剣道連盟副会長

加賀谷 誠 一



九月二十九日、昨日の雨はあがり秋晴れの下、空港に近い陸上競技場に天皇、皇后両陛下をお迎えし、秋田わか杉国体(総合)開会式が行なわれた。幼少年も参加した県民によるマスゲームは素晴らしく、観衆を魅了する。

私は閉会后、男鹿市に急ぎ、新設の剣道会場を見学した後、海岸に近い宿舎に入る。秋田県民歌の一節「狂瀾吼え立つ男鹿半島」「浜辺の歌」が聞えてくるようだ。厳冬と穏やかな季節の歌で、秋田生まれの成田為三作曲である。開会式でこの曲が流れていた。

剣道大会は、三十日から少年(男女)の部、二日から成年(男女)の部が行なわれた。秋田チームは、二回戦で最強を誇る東京チームと対戦。昨年の日本選手権優勝の内村・真近の東京都選抜八段戦優勝の遠藤をはじめ、有名選手が並ぶ。結果は大将戦に委ねられた。遠藤の力強く巧妙な技に対し、鎌田は懸待一致の捨て身技で攻める。機を見て放った瞬息の一撃(剣聖千葉周作の用語)で胴を取る。面で返され、延長は面で勝



つ。これで大きな山は越えた。この後は丁寧に進み、決勝戦は来年の国体開催県・大分と当たる。修練に拍車をかけている相手であるが勝利する。その結果、剣道四種別完全優勝の偉業を成し遂げた。

観戦しながら思う。勝つことは難しいものである。「剣道の理念(根本的な考え方)」は、「剣の理法の修練」を手段とし、目的を「人間形成」にしている試合は、修練の目標になるのみならず、剣道大会においては、普及・発展に貢献するところ大である。理念と共に健全なる心と身体を養う一里塚になる。

剣道上達を目指す「体力」は有限、「わざ」と「こころ」を一体にするのは無限であると言われている。この中枢を仮に「剣道脳」と名付け、修業の目標としたいものです。尚武の国・秋田の益々の発展を祈念します。

## 全種別完全優勝によせて

財団法人秋田県体育協会会長

蒔 苗 昭三郎



剣道連盟におかれましては、秋田国体の開催決定と共に、国体優勝のために、少年選

手の強化が必須という理念のもと、いち早く強化指定選手を選抜し、長期的な展望に立ち強化を進めていただきましたことは誠に感謝に堪えません。また選手強化の実践の場として小学生学年別個人戦を開催するなど、その取り組みは国体開催40競技の模範的な存在として、国体までの道のりを先導して頂きました。

強化選手が中学に進むやいなや、全国の強豪を擁する九州への遠征を行い、全国優勝への布石を投じて頂いたことは、連盟諸氏の先見のたまものと感嘆致しております。

「秋田国体は秋田人の手で」という目標の下、この国体を「新しい尚武秋田」の契機ととらえ信頼と協力のもと一丸となって邁進された結果が全種別完全優勝という大輪の花を開花させ、改めて尚武秋田を全国に知らしめた事は誠にうれしい限りであります。

秋田県体育協会と致しましては、これまで獲得できずにおりました天皇杯獲得は必ず成し遂げねばならぬ命題でありましたが、この国体では女子総合優勝に与えられる皇后杯も

獲得することができ、二重の喜びをかみしめているところであります。剣道競技では各種別とも負けの許されぬ誠に困難な対戦を打破して頂き、全種別が全国の頂点を極めたことに敬意を表したいと思います。



### 全種別完全優勝によせて

男鹿市長 佐藤 一 誠



第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」剣道大会では、選手、関係者の皆様の長年のご

努力が実り、全種別完全優勝という輝かしい成績を残されましたことに、改めまして心よりお祝い申し上げます。

国内最大のスポーツの祭典にふさわしく、人々に熱い感動を与え、長く記憶に残る大会として盛会のうち幕を閉じたこの国体で、郷土代表選手の活躍による完全制覇を目の当たりにし、その感激を共有できたことは、私たち男鹿市民にとってこの上もない喜びとなりました。

この国体に備え、全国各地から参加される選手、監督、関係者の皆様を「まごころ」込めたおもてなしで迎えようと、男鹿らしさを生かした精一杯の準備に努めてまいりましたが、すべての参加者が支え合い、協力し合って大会を成功に導くことができました今、努力が報われた思いでいっぱいです。温かな思い出とともに「ちいさな男鹿市でも、みんなで力を合わせてがんばれば、なんでもできる」という強い誇りと自信を与えていただき、秋田県剣道連盟の皆様をはじめ、ご協力くださいましたすべての皆様に深く感謝を申し上げます。

また、偉業を成し遂げられた郷土代表選手の皆様には、熱い感動と、完全制覇という大きな喜びをいただいただけでなく、男鹿の子どもたちがお送りしたメッセージにお返事をいただくなど、温かいお心遣いがありがとうございました。これをきっかけに「剣道」と「男鹿」とのつながりが、未来を担う子どもたちによって、この先も長く続いていくよう願っております。また、このあとに続く大会でも、剣士の皆様が日頃の修練の成果を存分に発揮し、一層ご活躍

されますようお祈りいたしております。

### 動転の完全制覇

秋田魁新報社 社長 佐藤 暢 男



あの日からもう二ヶ月にもなるのに、未だ興奮の渦の中にいる。「秋田剣道、完全制覇」。

十月四日付け秋田魁新報朝刊一面トップを飾った大見出しと、鎌田監督兼大将が高々と宙に舞う胴上げ写真。驚喜、歓喜の瞬間だ。

快挙は大会二日目、「剣道少年アベックV」に始まる。ともに、関東、近畿、九州の強豪県を撃破しての頂点。特に、決勝戦では前半リードを許しながら、逆転での完勝。

ここ十数年、魁星旗剣道大会でこの地区の高校勢の圧倒的な強さを見てきただけに、男子佐賀、女子福岡との決勝戦結果に、正直「まさか」の思いが先にたち、奇跡かと思った。

翌日「成年女子初の頂点」「連日の大将戦決着」の見出しにも震えた。ガッツポーズをとる十人の選手たちと穏やかに微笑む監督。全員の控えめな表情が、周囲を気遣いながら、互いに強さの自信を誇示しているようだ。真の逞しさとはこういう表情なのだろう。

締めくくりは成年男子の圧勝。二回戦で警視庁の猛者を集めた東京を逆転で破ってからの快進撃は、見事というしかない。地元で晴れ舞台に立つことの喜び、

誇りは大いに選手自身を鼓舞したところだろう。一方それゆえの重圧もまた、並外れであったことは想像に難くない。

地元国体に向けての、一步一步着実な選手強化への取り組みと厳しい日程での度重なる県外遠征。選手、指導陣の懸命な鍛錬、努力が実ったの快戦快挙。秋田県剣道連盟は組織を挙げて「凄い」ことをやってくれた。

四十六年前の秋田国体。急性盲腸炎で入院中の私の枕元で、父が自慢げに語った決勝戦の様子が思い浮かぶ。「京助、と叫んだ瞬間ドウが決まった。俺の勘もまだまだだ」と。終戦後、一度も竹刀を握ることのなかった父。小学校での教え子「副将・奥山京助選手」の勇姿がよほど嬉しかったのだろう。「国体」にはそんな懐かしい思い出もあり、奇跡のような快挙に、改めて敬服するばかりだ。



国体を終えて

完全優勝を支えた  
「運営」と「強化」

理事長兼副会長

鏡 喜 裕



我連盟が「運営」と「強化」を両輪とし、4種別完全制覇を目標に掲げ「挙連一致」の体制で国体の準備にとりかかったのは15年前である。開催にあたり「設営・準備・運営」へ課せられた要望は、前回大会（昭和36年第16回）で共感と呼んだ「まごころの精神」を継承しつつ、時代の要請に合わせて、創意と工夫により秋田らしい大会とすることであった。

設営と準備計画策定は地元国体事務局・競技運営は連盟と大きな役割分担はされていたが、地元事務局の負担は大きく、補助役員も含め大半を他市町村から招集するなど、その解決に秋剣連スタッフの果たした役割は大きいものであった。先催の岡山・兵庫県から具体的運営手法を教わったり、全剣連からも指導を頂き、無事運営の重責を果たすことができた。一方、開催県としてのこの大仕事を成功で締めくくるには「総合優勝」することが必須との思いから、開催決定と同時に、少年は小・中・高一貫の強化を推進した。それぞれで学年別強化指定選手選考試合をスター

トさせた。中学校に進学してからは、アドバイザーコーチ（香田郡秀先生）の招聘を本格化させた。高校進学後は他県遠征をし、気力、技量の向上と全国レベルの戦力分析も行った。成年は勤務と練習の調整が課題であったが、勤務先に協力して頂いて、遠征などによる計画的な強化推進ができた（加藤浩二先生のご指導が大きい）。また、選手決定をギリギリまで延ばしたことで、強化選手達が最後まで切磋琢磨し、チームワークとサポートの気運が醸成されたことが勝利につながったと思う。更にトレーニングアドバイザー齊藤実氏のご尽力により、「優勝できるチーム」に成長した。

このように、国体成功に向け、車の両輪として進めてきた「運営と強化」の具体案を改めて検討し、「継続は力なり」をモットーに今後の秋田県剣道界の強化発展を期したい。



だいそれた決意すべて適中

国体推進総括 強化委員長

目黒 大作



平成十八年五月、第二回秋田わか杉国体男鹿市実行委員会総会の席上、開催四種目からの

決意表明があり、剣道を代表し、秋連国体推進委員会を代表して話したことを今でも鮮明に覚えております。

我が秋剣連強化委員会では、成績面においては、四種別すべて優勝を果たし、秋田県の天皇杯優勝に貢献すると共に、男鹿市民はもとより、関係各位のご苦労に対して報いたい。

運営面においては、今後の国体剣道大会の範となるべき、無理、無駄のない、かつ効率的な運営に心掛けたい。選手に対しては、好条件のもとで持てる力を十分に発揮できるような競技運営を、また男鹿に足を運んでいただいた多くの方が、いつまでも大会の好印象が残るような、おもてなしの心を忘れないで接する大会運営を心掛ける。と決意表明をしました。

終ってみれば、だいそれた決意がすべての中、これも選手、役員をはじめ多くの方々の一致団結した「一生懸命さ」がこの成果をもたらしたものと深く感謝を申し上げるものがあります。終ってから、他県の選手、役員、

関係者から寄せられたメッセージにただただ頭が下がる思いであります。  
・ 快挙、完全制覇、偉業成し遂げに敬意

- ・ 切れ味のある鋭い剣捌き、うなりました
- ・ 武の道が、運動文化というより、芸術文化の極美を感じさせる素晴らしい士の戦に感銘
- ・ 水を漏さぬ管理体制に敬服
- ・ 万全を機した運営面の素晴らしさ、木目細かな心遣い、ご配慮に頭が下がった。
- ・ 思い出にのこる国体であった、こんなすばらしい大会はこれから先、忘れることの出来ない貴重な思い出として残るでしょう。

最後に、ある人の「郷土の誇りと、使命感に燃えて戦った結果である」と結んでいる言葉がすべてを言い当てていると思っています。

国体推進総括としてお礼を申し上げます。強化についての報告は別の機会に譲ることとします。



### 四種別完全制覇を 成し得て想うこと

総監督 伊藤 碩 士



挙連一致で四種別完全優勝を目指して最終年度がスタートした。鎧理事長陣頭指揮のもと県立武道館を強化の拠点として毎週火曜日は少年・成年の強化指定選手が一堂に会し、強化指導陣・一般会員が心ひとつになって強化に励む、道場の畳の席では少年男女の保護者の多くの方々が毎日のように応援にかけつけ、選手・指導者・家族の方々が一体となった取組みが勝利への大きな要因となった。又、少なくとも月一回は各種別とも遠征を計画、遠征のない土日はアドバイザーコーチの香田、加藤の両先生を招へいして徹底して強化に励む。少年が中学時代、香田先生が同行して九州遠征、こんなひ弱い少年少女が果たして結果を出せるのかと危惧された彼等も中高一貫して強化につとめ、大きく成長した。成年の加藤先生は本県の先輩と言うことで齒に衣着せない指導ぶり、「千枚通しだぞ」に象徴されるように情の深い指導、ほんとうに少年、成年とも両先生の指導があったればこそその快挙でありました。又、長老の内山先生が土・日の強化練習に必ず見えられ団体まではなんとか頑張らねばと道場に立たれる姿は大きな教えであり支えでありました。

このような強化練習から選手間の強い信頼関係が生まれた。剣道は個人の競技であるがチームとしてそれぞれの与えられたポジションをどう守り補い合いながら副将、大将とつないでいくかこの個人の力を超えたその醍醐味を会得し、人として一皮も二皮も脱いだ器となる経験を今団体でしたと思います。最後に完全優勝にも勝る喜びとして応援のマナーである、相手の反則に対する拍手がなかったことである。成年男子の決勝戦、先鋒の金森が相手の場外反則で決着がついたとき、ややもすれば嬉しさのあまり拍手があるものであるがなかったことに象徴されるように相手を思いやる精神が高く評価された、このマナーを秋田から全国に発信されることを期待したい。



### 全種別完全優勝によせて

アドバイザーコーチ  
皇宮警察名誉師範  
範士八段 加藤 浩 二



私がアドバイザーコーチを引き受けることになった時、現在の自分を育ててくれた郷土の先輩、先生達が頭に浮かび、無言の教えとして湧いて来た。これは絶対に勝たせなければと思った。そのためにはまず秋田の剣道の原点を思い起こし、剣道の本質に迫るしかない、そう心に決め指導方針を立て選手に理解してもらおうしかなかった。秋田の剣道の原点は、黙々と繰り返し繰り返しやり抜く精神、理屈抜きに立ち向かって行く姿こそが本領である。私自身、妥協の無い厳しい稽古を高校生の時に植え付けられ現在の自分があることに気が付かされた。それは単なるスポーツとして技を競うというよりも、自分の全力で自得する剣道、それを実践し、やる内容にいかにも真剣に取り組むか、基本の素振りにしても腰割りにしても、ただ体が痛いかか苦しいとかはない、理屈抜きに自分の体で、体に一本一本たたきこむ以外に方法はないのである。それが秋田の先人達が教えてくれた剣道であった。現在の内山、加藤先生はもちろん、奥山、吉井、岩谷、船山、佐藤五郎、国鉄の菅原、等々の先生方、それに郷土の先輩として、乳井、小笠原一郎、小笠原三郎、菅原恵三郎先生等

から真剣にご指導いただいた秋田の剣道がここに残っている。是非ともこのわか杉団体のチャンスを生かし全国に広めることが秋田の選手の使用命と考え、真剣に取り組んだ。運良くその成果が東京戦でまず動いた。先鋒から大将まで自分の剣道に徹した見事な戦いぶりであった。東京は最強軍団といわれ、選手層は厚くついている隙の無い軍団である。それに対し一歩も引くことなく、自分から捨て身で攻める姿、なんとも言いようの無い試合であった。一本に掛ける闘志、何者をも恐れない、勝ち負けを超えた攻めに徹した剣道で県民一丸となって応援してくれる拍手が鳴り止まなかった。やりがいのある仕事であった。少しでも恩返しができるきたらうか。

何よりも大切なことは地元の人達の応援、選手になれなかった人達、組織、剣道に携わった全ての人達全員が、最後まで一丸となって参加され、選手達はこの信頼を背負い他県選手に向って行った。剣道の本質である「攻めて、乗って、崩して、破って打つ」こと。しかし、この「破る」ためには勇氣、決断、捨て身を日頃の稽古で自得するしか無いのである。その手助けがアドバイザーコーチの役目であった。一瞬にして消えていく人生にかけた選手諸君に心から「ありがとう」と言いたい。これからも未来に向かって自分の剣道を極めて欲しい。

大高先生の父上の一句  
汗を流し 己に勝つは剣の道  
青春の夢 悔いは残らず  
なお一層の精進を期待して止まない。

全種別完全優勝によせて

アドバイザーコーチ  
筑波大学剣道部監督  
教士八段 香田 郡秀



この度の秋田わか杉国体完全優勝まことにおめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。秋田剣人の鍛え抜かれた地力と旺盛なる気概を見せていただきました。今回の優勝は、皆が納得できる立派な試合内容であったと思います。

今でも試合当日の選手、監督、スタッフの気持ちの高ぶり、団結力、そして優勝を決めた瞬間の興奮が甦ってきます。私が関わってきた6年間の思い出を書かせていただきます。

1、最初の印象  
私は6年間、少年男女のアドバイザーとして秋田に通わせていただきました。選手はまだ小学6年生、中学1年生でした。私は九州の出身です。こんな事を申しますと、大変失礼なこととお叱りを受けるかも知れませんが、九州の子供達に比べますと最初の印象は「まず気迫がない、剣先が振れてなくて打ちが弱く遅い。これで国体優勝は難しいだろう。せめて入賞できるメンバーくらいにはなればよいが」と思っておりました。しかし、生徒達は素直で目は輝き、厳しい長期の強化についてきてくれました。

2、思い出に残る中学校九州遠征

(強化2年目)

「一番強いところに行こう。九州の剣道を体験させたい」ということで最初の遠征は佐賀と、熊本、長崎に行くことになりました。三ツ瀬中学校、北茂安中学校、熊本の九州学院中学校、阿蘇中学校等たくさん強豪校が集まってくれました。案の定、九州剣道の気迫に圧倒され「打たれに打たれ、倒され」涙ぐんでいた子もいました。この時点ではまさかこの九州勢に勝って国体で優勝できるなどは誰一人として思っていなかったでしょう。

3、全国トップレベルへレベルアップ  
強化2年目くらいから剣道の基礎・基本が徐々に身についてきたと思います。強さが目に見えてきたのは昨年のインターハイ、玉竜旗大会頃からだと思えます。優勝はできなかったものの剣道の内容が良くなったと思えます。他県の高校の先生から「秋田の剣道が変わった。崩れない。だから打たれても審判の旗が上がらない。」と高く評価する声をちらほらと聞くようになりました。そして、今年に入り、益々レベルアップしました。「先をとれる、縁の切れない稽古」になりました。これは、湯澤・木浪監督をはじめとするスタッフが自ら元に立ち、選手を鍛え抜いた指導の成果だと思えます。

最後になりましたが、6年間アドバイザーとしてお招きいただき秋田剣道連盟の先生方に感謝申し上げます。

そして中学校、高校の指導スタッフの皆様、色々とお世話になりました。の皆様、色々とお世話になりました。の私自身思い出に残るすばらしい経験をさせていただきました。この秋田国体完全優勝を機にますますの秋田剣道連盟のご発展をお祈り申し上げます。



監督として

優勝までの道程

成年男子監督兼大将  
鎌田 耕平



国体まで後一カ月余りと迫った8月の末、東北総体が福島県二本松市で開催された。

春からの強化練習や強豪県への遠征、練習試合を経て、我々は手応えを掴み、多少なりとも自信をもって臨んだはずの大会であった。が、結果は予選すら出ることができなかった。惨敗である。

当然、指導陣からは無様な試合ぶりについて強いお叱りを頂戴することになるが、それ以上にショックを受けたのは、我々選手自身であった。帰りのバスの中は水を打ったような静けさで、皆、口を閉じたままである。一体、何が悪かったのか。何が足りないのか。これからどうしたらいいのか。私の頭の中ではそんなことがぐるぐると回り、どうしようもない気持ちで悶々としていた。隣の席を見ると、私と同じような思いなのか、中堅の辻村が一点を見つめたままである。

試合で負けたのは、我々の力が不足だからだろうか。いや、決して力では劣っていない。だとしたら、原因は我々の心の内にある。気の緩み

や過信、責任感の欠如はなかったか。「辻村、くやしいなあ、このままでいいと思うか？」

そう聞かされると、彼も全く私と同じ気持ちで、とにかくなにかしらのアクションを起こそう、と言うのである。

彼は中堅であるが故に、二世代に渡る成年チームの真ん中で若者頭でもある。彼に若い連中をまとめることをお願いし、さっそくバスの後ろに全員を集め、(各自が強化選手としての自覚と責任を今以上に持ち、やらされているのではなく、自分たちから進んで練習をしよう。火・水・土の強化練習の他に、木・金も自主練習をしないか。)

あの日から我々は変わったのかも知れない。理事長や強化委員長、総監督、コーチ陣の全面的なバックアップもあり、国体を一ヶ月に控えての調整ではなく、打ち込みや掛り稽古を主体にした自らの猛練習に入ったのである。

組み合わせも決まり、我々は二回戦で当たるだろう東京戦に、全てをかけることにした。東京の各選手はなにかしらのビッグタイトルを持っている強者揃い。対する秋田勢はそんな経験者は誰一人いない。誰がみたって実力は東京が上である。もし、勝つ要素があるとしたら《負けて元々》の開き直りに、《勝ちたい》をプラスし、東京の《負けられない》だけの気持ちにつけ込むことである。この時点で、優勝の二字は誰の口か

らも出ない(とうとう、最後まで出なかった。)

会場入りしてからは行動を共にしてきた強化選手の仲間たちが、率先して練習の先頭にたち、元になったり、アドバイスをしてくれるなど全員が一つの目標に向かって歩き出した。合言葉は「勝ちたい!」である。いよいよ、大一番、対東京戦である。先鋒金森、鮮やかな逆胴で先ずは先勝(今大会全勝の最高殊勲者。)

次鋒、土田、終始押していたが逆胴で敗れる。中堅辻村、三十分以上の激闘で返し胴で敗れる。(しかし、勝負に対する執念に元気をもらおう。)副将貝田、八段を飲むがごとき、表面は荒々しく、心は冷静に、鮮やかな二本勝ち。二対二でいよいよ私の出番である。私は、この試合に臨むに当り、二つのことを心に決めていた。一つは手元を上げないこと。二つ目は攻め負けないこと。この二つは剣友小松誠氏からいただいた試合前のアドバイスである。感謝。

試合後、泣きながら駆け寄り、手を握り締めてくる選手たちから、この試合にかけていた並々ならぬ思いを強く感じたのである。

私がチームの大将として貢献できたのはこの一試合だけである。次の日の優勝までの戦いぶりは全て若い彼等の活躍である。優勝し初めて二字を言葉に表せたのも彼等のおかげである。しかも夢だと思っていた優勝である。長かったここまでの道程。強化の仲間たちとの見えない糸で結

ばれた和。いつも適切なアドバイスと叱咤を飛ばしてくれた加藤アドバイザーコーチ。身近で励まし、益をいつも私達にくださった伊藤総監督。そして、コーチをはじめスタッフの皆様。連盟の長谷部会長と鑑理事長をはじめ諸先生方。そして何より応援をしてくださった剣友の皆さんに心から感謝です。ありがとうございました。



## 成年女子監督としての思い出

大 高 尚 士



平成16年7月より監督となりましたが、その時のチーム力は東北大会で5位という力量で

した。国体出場権は2位までですが、この後どのようにして強化すればよいものかと、とまどった記憶があります。17年地元(男鹿)の東北大会でも結果は4位でまたも国体出場ならず県剣道連盟の皆さんに大変、心配やら迷惑をおかけしました。そこで、コーチの遠藤律子さんと、指導方法、練習の仕方について何回も話し合い、心を込めた指導と基本練習しかないとの結論に達し、ひたすら基本練習に徹し、一本一本を大切に「心」とチームの「和」を大切に育み18年の東北大会に臨みました。一回戦から全て苦しい試合の連続でありながら、13年ぶりの優勝をすることができました。その気迫で国体に臨み、優勝候補の大府府を破り5位に入賞、優勝候補の大府府を破り5位が少し見えてきました。今年、強化日程に従い強化選手10人と共に「強化」の毎日でした。それぞれの職場、家庭の理解がなければ当然消化できないような強行日程の中で、第三次までの選考会の結果、決まった選手は昨年の東北大会優勝メンバーが全員入れ替わってしまったのです。監督として誠に心の痛む思いであり

ました。しかし国体優勝のためには「やるしかない」と心に決め県内外合宿、強化練習等に励みました。県内外合宿において他県との試合は20数試合を行い、その戦績は、引き分けを挟み1回も負けていないのに気づき、このままでいいのだろうか、迷いつつ東北大会へ臨んだところ1回戦で地元福島県に負け、次の青森県にも負け3位、国体には開催県出場ということで、内心ほっとしたところどころが本音でした。

この大会で気づいたことは昨年の北海道遠征合宿です。参加チームは16年度優勝の埼玉県、17年度優勝の岡山県、18年度開催県の兵庫県、地元北海道、その練習試合では東北大会で優勝したAチームが負け、国体メンバーBチームが引き分けを含め全勝していたのです。ミーティングでは、「Bチームは強い、しかしAチームのように一本一本を大切にやる「心」がなければ東北大会は優勝できないよ」と言ったことを思い出し、再度基本に戻り全員の「和」と「心」を大切にして、数少なくなった日々を指導しました。本大会が近づくとチームのムードが良くなって来るのがわかり、本大会では一試合、一試合と重ねていくうちに強化選手全員の心が監督に伝わり、なんか、いけいけと背中を押されているようでした。特に決勝福岡戦は先鋒、鈴木選手の超人的な粘り、中堅、中村選手の「中途半端はだめだ、気持ち捨ててくる」を実行した精神力、

大将、堀川選手は彼女しか打てないあの瞬間の甲手、あの甲手で優勝を決めたのはすばらしいことでした。私は優勝が決まった瞬間、体育館の天井を見つめながら、優勝したんだなーと思いつつ、「あーあ終わった」とつぶやいたことを今でも鮮明に覚えています。



### 少年男子決勝戦

湯澤 寛



大会第二日目、少年男子の決勝戦を目前に練習調整会場には秋田県の選手と監督・コ

チだけが控えていた。調整会場の隅に置かれたテレビモニターには、第一試合場で行われている秋田県少年女子の気迫ある決勝戦が映し出されていた。次は少年男子の決勝戦、一秒ごとに緊張は高まるばかり。選手はそれぞれが天井を見上げ、ため息をついたり、目を閉じて今から始めようとしている試合に全神経を集中させたりしていた。私はその様子を見ながら「遂に最後の戦いの時がやってきたか。」と感慨深くなっていた。いままでの選手たちの不断の努力。諦めないで相手に向かっていく姿勢。遠征試合での勝利の笑顔、負けた時の沈鬱な表情など。みんなで共有してきた思い。そのすべてが一瞬の勝負にどう表現できるか。期待と不安が自分の中で飽和状態になり張り裂けそうになってきていた。

大会八日前、九月二十二日・男鹿市総合体育館の第一試合場で赤の標識(たすき)を着けて立ち合いから試合の終了まで本番の決勝を想定しての練習。コーチと強化指定選手を相手に技の出し方から気持ちの持ち方まですべてをチェックした。うまくいかなければ出来るまで行った。

同様なことを何日何度繰り返したかわからない。しかし、いざ、この準備したことが試される日が近づいていき、張っていることは張りつめた雰囲気を感じられた。

決勝戦、大観衆が見守る中、先鋒・菊地の鋭い技が炸裂。次鋒・齊藤粘るも敗退。中堅・小松ケガから復調するも敗退。一進一退の攻防が繰り返される。劣勢になりながらも副将・岩川が勝負を五分に引き戻す。大将・佐々木は相手の大将とこれまで何度か手合わせをしている。この日の勝利のために二度相手高校に向いて胸を借りてきた。気持ちが前に



出て、果敢に技を繰り出す大将を観衆全員が固唾をのんで見ていた。勝負の均衡を破る佐々木の面に赤い旗三本、会場が沸いた。

生涯忘れることのない瞬間であった。今も多くの方々が記憶されていることだろう。指導スタッフ選手にとっては一生の宝物となる経験をさせていただいた。

これまでに県体育協会をはじめ県剣道連盟の御指導とご理解、保護者の皆様の協力。そして全国の仲間達に強くしていただいた。すべての方々に感謝を申し上げます。

## 少年女子優勝の道

木浪 恒二



大会前のミーティング。強化選手9名とスタッフ5名が宿舎の一室に集

合し、一人ひとりのわか杉団体に懸ける思いを語り合った。練習が厳しくて強化選手をやめたくなった話。両親への感謝の言葉、本番の選手から外れて悔しくて落ち込んでしまった話。本番に向けての期待と不安など、全員が素直に自分の気持ちをさらけ出してくれた。中には感極まって涙を浮かべる選手もあり、正に8年間、苦楽を共にしてきた選手達の心が一つにまとまった瞬間であった。思えば昨年の兵庫国体で大阪に破れた夜、来年こそは地

元秋田で優勝しようとして誓ってから1年。強化合宿、遠征、稽古会など様々な場面で沢山の方々から指導をいただき、順調とは言えないまでも少しずつ着実に力をつけてきた。大雪の中、深夜2時にやっとたどり着いて出場したつくばね旗大会。朝8時から午後3時まで、昼食もとらずに毎日頑張った阿蘇遠征。身長180センチを超える大男、高久、打川、加賀谷、3人のコーチ陣に何度も体当たりをして鍛えてもらった毎日の練習。選手達は切磋琢磨しながらチームワークよく苦難を乗り越えてきた。「これまでの思いを剣先に乗せて自分の力を出し切ろう。それが応援してくださった方々への恩返しだ」スタッフからはそのことだけを確認しミーティングを終えた。

翌朝、快晴の空の下、いよいよわか杉団体がスタートした。試合直前の練習は香田アドバイザーコーチにも同行していただき、今まで経験したことのない張りつめた空気の中で最後の調整を行った。「これまでで最高の動きをしている。自信を持って戦いなさい。」と心強い励ましのお言葉をいただき、初戦の大分戦に向けて集中力を高めた。試合が始まると、香田先生の言葉通りの切れのある動きと、満員の観客席すべてが秋田県チームの応援とも思われる大声援の相乗効果で、初日を順調に勝ち進むことができた。しかし、勝負は甘くはなかった。2日目の準決勝戦、ここまで全勝でチームを引っ張ってき

た先鋒門間が敗れた。次鋒は足首を痛めている畑澤。この場面で畑澤は2年生とは思えない冷静な試合運びで相手を決め一本勝ち。続く中堅三浦は、慣れない上段を相手に村上ヘッドコーチの秘策通り絶妙の小手を決め、その後も相手に攻め入る隙を与えずに勝利してきた。この2人の活躍で準決勝の熊本戦を乗り切り、決勝戦に進めた。進行の関係で、決勝戦は準決勝が終了して休む間もなく始まることになった。「気持ちを集中させる時間が欲しい」と思った私は選手を控え室に連れて行った。しかし、すぐ選手席に入るようにとアナウンス。ここで選手を呼びに来た花輪高校の青山先生が時間を稼



いでくれた。地の利である。集中力を高めていよいよ福岡との決勝戦。開始早々に先鋒門間が準決勝での無念を晴らすべく、2本勝ちしたものの次鋒、中堅が破れ、後のない本県は副将、主将の貝田。大会2週間前に痛めた腰が完治せず、2日前に本格的な練習を再開したばかり、不安を抱えての戦いであった。ここで目の覚めるような飛び込み面を決め2本勝ち。大将の神坂へとつないだ。大きなプレッシャーの中、2年生大将の神坂は圧倒的な攻めの剣道で完勝。秋田県少年女子に初優勝をもたらした瞬間であった。1人が負けても他がカバーする。強化選手全員で乗り越えてきた稽古で鍛えられた精神力が、勝負の行方を左右する結果となった。大会前夜のミーティングで誓った言葉を実践できたのである。為せば成るの精神で努力してきた9人の選手達にとって一生の財産となったことは言うまでもない。

これまで御指導下さった中体連・高体連を含む秋田県剣道連盟の先生方、学校関係者、保護者、試合に出場できなかった強化選手、補助員として頑張った高校生、すべての方々に感謝し、今大会を通して勉強させていただいたことを今後の剣道普及啓発に役立てることを我々の責務とし、大会の報告とさせていただきます。応援ありがとうございました。

# 親子日本一の ちかひ

## 秋田わか杉国体

### 親子での全国制覇

ふるさと秋田の心に感謝して



貝田 裕 昭  
(ふるさと選手 山形在住)

悲願であったチームの全国制覇「日本一」という感動を、生まれ故郷秋田の地で達成できましたことは生涯の喜びであり、体力的・能力的にも決して恵まれていたとはいえない父花がこのようなすばらしい大輪の親子になりましたことは、世界一幸運な親子であります。謹んで、秋田県剣道連盟・秋田県体育協会、強化スタッフの皆様をはじめとし、出会った多くの方々に心から感謝申し上げます。

秋田に生まれ育ち21年間、山形での生活をはじめ21年目、偶然にも同じ年月を迎えたことになりました。二度とないであろう秋田県としての選手出場は幸運にも「ふるさと選手」制度の活用で実現することができ、娘も偶然に秋田県の入学選抜方法が改革されたことで受験が可能となり、秋田の高校に進学を決定し「秋田わか杉国体」と関わる事ができました。考えてみますと娘の決断が無ければ「ふるさと選手」としてのチャレンジも無かったように思います。私にとっては剣道生活35年目、娘にとっては10年目での「日本一」であります。いくつもの幸運が重なった結果であり、何よりも「秋田

の剣道」を選択したことが強運であったように思います。確かに、「制度の活用」や「親元を離れての生活」はそれぞれに期待と不安が混在した複雑な心境ではありましたが、不安を抱きながらも思い切った決断をして邁進したことで成功への道が開け、見えない扉を思い切って開くことでかけがえのない先生や仲間と出会う機会が得られたことも事実であります。

「秋田わか杉国体」の強化の一員にさせていただき、秋田の方々の寛大で温かい気持ちを改めて感じる事ができました。娘は、「秋田の剣道が好き」「秋田の先生方が好き」「秋田で剣道するときには「貝田」と名前で呼ばれるのが好き」と言います。秋田には大変多いことをこの強化を通して確信したのだと思います。私にとりまして、強化訓練における秋田の先生方との稽古は何よりも稽古できる喜びでありました。仕事を終えて7時間の時間をかけて秋田山形間を往復する生活も自分自身が楽しんでいくように思います。しかも、内山範士との稽古姿を画像に収めさせていただきましたことは生涯の宝となりました。このように、大会を完全優勝という最良の結果で終えられた背景には多くの方々のお力添えがあったことはいうまでもありませんが、国体という行事とおして、結束する力、強化をとおして培われる人間力や人としてのつながりは勝る以上の価値を得られたものと感謝しております。

最後に、「諦めない。前向きな気持ち。」「人を成長させ、「努力と創意工夫をもって継続する。」ことは不可能を可能にしてくれ、「思い、願い、念じて、実行し、人との和を大切にする。」ことで大輪の花を咲かせると

いうことを「秋田わか杉国体」が教えてくれたように思います。大会当日の会場の大歓声、恩師と同じ時間を共有でき、地元（ふるさと）を共感し、教え子と同じ舞台にたち、最後の親孝行をできましたことは生涯忘れることなく一層「剣の道・人の道」に精進し、教員・選手・指導者として社会貢献に努める所存です。



# 国体に出場して

## 秋田わか杉国体を終えて

成年女子 堀川 智子  
(ふるさと選手 埼玉在住)



秋田わか杉国体におきましては長谷部会長、目黒国体強化委員長はじめ、秋田県剣道連盟の多くの先生方、会員の皆様には大変お世話になりました。ふるさと選手としてお声をかけていただき、

微力ながら成年女子の大将としての責務を果たし、愛する郷土秋田の地で地元国体完全優勝の喜びを、皆様と分かち合えたことは、私の人生の宝となりました。

これもひとえに秋田県剣道連盟の皆様、長年にわたる御尽力の賜であり、また開催地である男鹿市民の皆様、また開催地である男鹿市民の皆様、また開催地である男鹿市民の皆様のご協力と声のおかげと、心から感謝、御礼申し上げます。

強化練習、遠征では加藤浩二アドバイザーコーチはじめ、伊藤総監督、大高成年女子監督、遠藤・湯瀬コーチ、高橋トレーナー、成年男子強化メンバーの皆様には貴重な御指導をいただき、誠にありがとうございます。地元国体優勝という目標は眼前にそびえる山の如く、とてつもなく大きく、不安と疲労、試行錯誤の連続で、ミニ国体では持てる力を発

揮できず不本意な結果となってしまいました。大高監督には心労をかけてしまいました。監督、コーチ陣の叱咤激励、強化メンバー同士で励まし合い、厳しい強化を乗り切ることができました。また私が日頃お世話になっております埼玉県剣道連盟の水野会長はじめ、埼玉県、地元越谷市の先生方、会員の方々、剣道を通じて出会えた全国の仲間のあたたかい激励も大きな力になりました。

人と人とのつながりに感謝しつつ、見事な秋晴れの中迎えた本大会。信頼しあえるメンバーとともに精一杯戦い、感謝の気持ちで優勝という形でお返ししたい。誰と対戦しても勝つことが私の使命であると、強く思う事で集中して試合に臨めました。

剣窓11月号の田原弘徳審判長の総評の中で「地元秋田は気力と勝利への執念が見事に実り、完全制覇を成し遂げ、剣道試合は気力と目標に向かう執念が如何に大切かを立派に表現した」の言葉に涙があふれ、家族とともにあらためて喜びをかみしめました。

最後になりましたが、理恵、亜希子、お疲れ様でした。強化メンバーの皆様、浦島太郎のような私をあたたかく迎えて下さりありがとうございました。個人的で明るく楽しい先鋒の皆さん、仕事、家庭と多忙の中にあっても研究熱心で充実していた中堅の皆さん、そしてコーチ兼選手という激務の中、私達を導いて下さった律子先生、愛息子を心配しつつも

いつも明るくみんなをまとめて下さった秋元先輩、大将三人で体を労りつつ切磋琢磨した日々がなつかしく思い出されます。お二人の存在があったからこそ、今日の秋田県女性剣道の発展があり、団体優勝という結果を残す事ができました。この場をお借りし、深く敬意と感謝を申し上げます。

秋田県剣道連盟の今後益々の御発展をお祈り申し上げ、御礼に返させていただきます。



### 国体を終えて

少年男子大将

佐々木 真 直  
(秋田南高校3年)



国体が終わって一ヶ月が経過しました。最近では雪も降り始め、国体での興奮もやわら

ぎ、ようやく落ち着いていた生活になってきたところです。この静けさは、少しさみしい気もしますが、私的心中では、本番当日のことが今でも昨日の事のように思い出します。それだけ私にとって地元国体で、みんなが一つになって優勝を勝ち取ることができたことは、今まで十八年間生きてきた中で一番思い出に残ることであり、そしてこの優勝は、これからの私の人生に大きな影響をもたらすことだと思っています。

今までは練習や遠征などで忙しく、冷静に考える時間がなかったのですが、今は少し時間ができたので今までの事を振り返ることができるようになりました。高校に入學し、国体優勝を目標にしてからの辛かった練習の日々、目標を見失いそうになっても仲間がいたから互いに励まし合いながら声をかけ合いながらがんばって来ることができました。この優勝の影には、両親の支えや全国のたくさんの方の仲間や先生方からの温かいアドバイスや励ましがありません。そして会場に来て下さった皆さんの人たちの応援がありました。ひとり

では強くなることはできません。大きな目標を達成するためには多くの人の支えが必要であると実感しています。本当に感謝しています。私これから大学に進学しますが、この気持ちを忘れることなく、大学に行っても、勉強にそして剣道にしっかりと取りこんでいきたいと思っています。そして再び日本一になるために、日々の練習をがんばっていきたいと思います。



秋田わか杉国体優勝までの道のり

少年女子中堅 三浦 さゆり

(秋田商業高校3年)



「秋田わか杉国体優勝!!」この道のりはとても長く感じました。私は中学生になってから強化選手になりました。地元国体が高校3年生の時にあることは知っていましたが、あまり大変な事だとはとらえてはいませんでした。高校生になってからは、強化練習会・遠征・合宿の回数が増えていくにつれ地元国体の重大さを徐々に感じるようになってきました。

振り返ると、高校2年生の頃が一番きつかったように思えます。強化練習会や遠征先での練習試合の辛さのあまり、地元国体に重なる年に生まれたことを恨み、何度も強化選手を辞退しようと考えていたのが正直なところでした。そんなとき支えになってくれたのは、両親の存在でした。わがままな私の愚痴を聞き入れ、もう無理だと諦めかけた時に、根気強く励ましてくれました。3年生になってからは、時間が過ぎるのがとても早く感じました。国体が目前まで迫ってくるにつれて、早く試合がしたくてたまらなくなりました。県全体の盛り上がりや、雰囲気がそうさせていたのかもしれない。

国体当日のことを振り返ると、朝起きてからすでに緊張していたこと

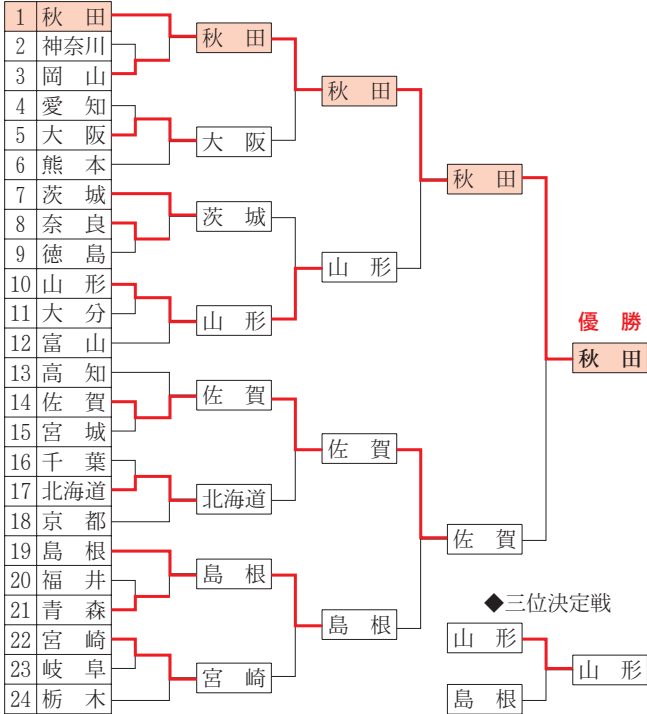
が思い出されます。しかし会場に着いて場内を見渡すと、応援にきているほとんどの人が、知り合いや見たことのある人だったので一気に緊張がなくなりました。そしていよいよ試合が始まりました。今まで練習してきた成果を十分に発揮すること、これまで支えてきてくれた方々や、応援してくださってる方に恩返しできるように試合をするように心がけました。苦しい試合がたくさんありましたが、大声援が力になり、優勝することができました。とてもうれしかったです。



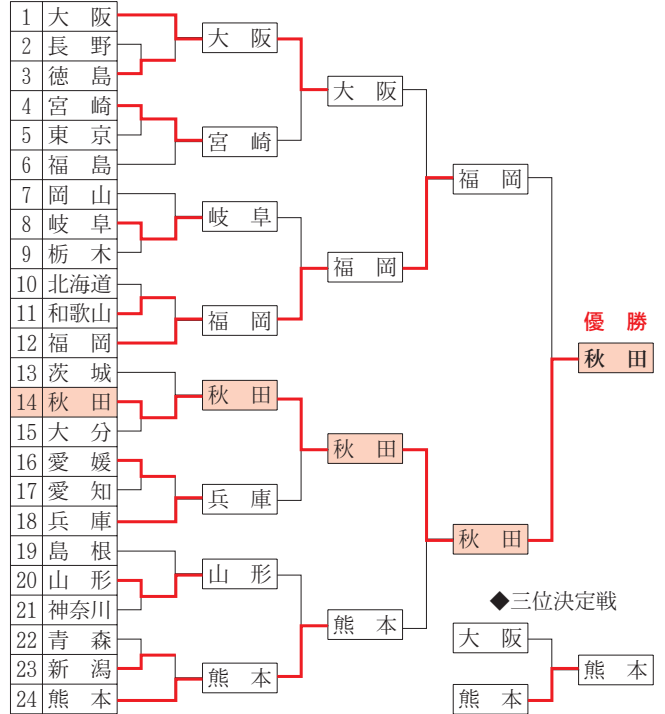
# 第62回 国民体育大会 剣道大会

平成19年 9 月30日～10 月 3 日 於：男鹿市総合体育館

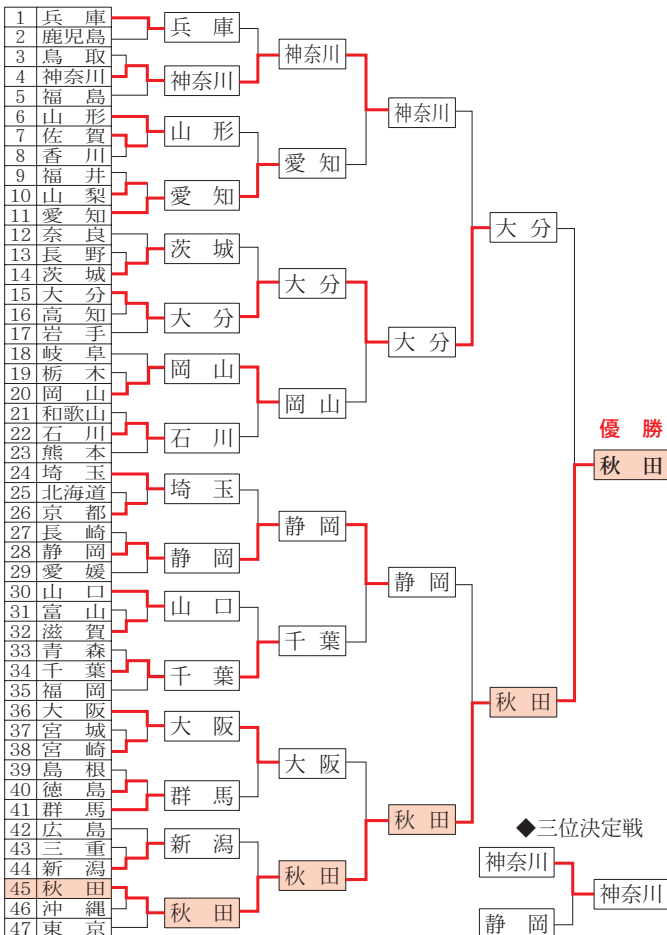
## 「少年男子」の部



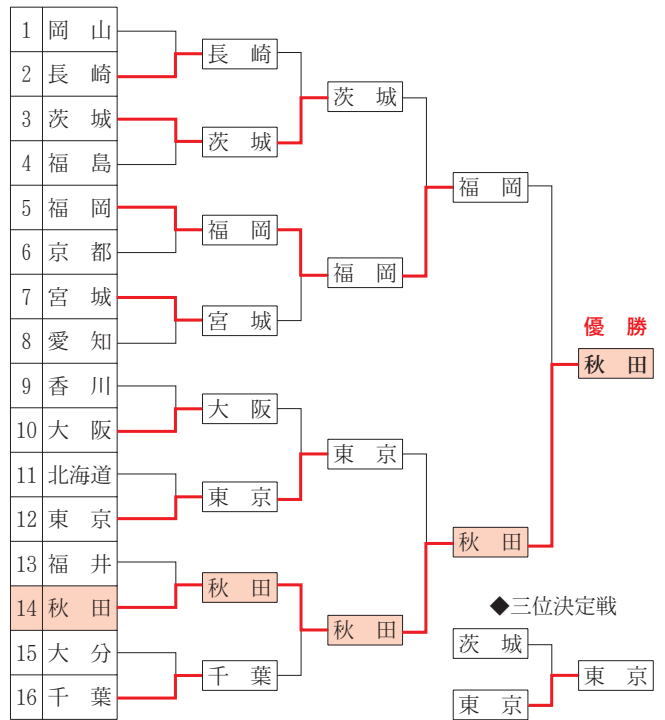
## 「少年女子」の部



## 「成年男子」の部



## 「成年女子」の部



# 剣道競技試合結果

平成19年9月30日～10月3日：男鹿市総合体育館

※ ○内数字は段位

## 少年男子

### 2回戦 9月30日

秋田 4 - 1 岡山

- 菊地② メドーメ 山根②
- 齊藤② ドー 長石③
- 小松③ ー ド 石原③○
- 岩川③ コメー 加藤②
- 佐々木③メメー 筒井②

### 3回戦 10月1日

秋田 3 - 1 大阪

- 菊地② メメー 谷 ②
- 齊藤② メコー 吉田②
- 小松③ メメー 高 ③
- △岩川③ ー 桐石②△
- 佐々木③ ー コ 辻 ②○



### 準決勝 10月1日

秋田 5 - 0 山形

- 菊地② メコー 渡辺②
- 齊藤② メメー 後藤③
- 小松③ メメー 齋藤②
- 岩川③ コー 石川③
- 佐々木③メメーメ 村山③

### 決勝 10月1日

秋田 3 - 2 佐賀

- 菊地② ドコー 栗山③
- 齊藤② ー コ 三雲③○
- 小松③ ー 反 海野②○
- 岩川③ メメー 川崎③
- 佐々木③メー 西村③



## 少年女子

### 1回戦 9月30日

秋田 4 - 1 大分

- 門間③ メー 大段②
- 畑澤② メー 近藤②
- 三浦③ メー 上野②
- 貝田② メー 古寺③
- 神坂② メー 三苫②○

### 2回戦 9月30日

秋田 3 - 1 茨城

- 門間③ コメー 小澤②
- 畑澤② メー 池田③
- 三浦③ ー メ 田澤②○
- 貝田② メメー 長南③
- △神坂② ー 坂本②△

### 3回戦 10月1日

秋田 4 - 1 兵庫

- 門間③ メメー 山村②
- 畑澤② ー コ 西山②○
- 三浦③ メー 藤原③
- 貝田② メメー 中村③
- 神坂② メメー 松井②

### 準決勝 10月1日

秋田 3 - 2 熊本

- 門間③ コー ドメ 西島③○
- 畑澤② メー 平野②
- 三浦③ ココー 野田③
- 貝田② ー メ 野口③○
- 神坂② メー 田山③

### 決勝 10月1日

秋田 3 - 2 福岡

- 門間③ メメー 里井②
- 畑澤② ー メ 島添③○
- 三浦③ ー メ 長澤③○
- 貝田② メコー 岩崎③
- 神坂② メメー 宮本③

## 第62回国民体育大会

## 成年女子【男鹿市総合体育館】

## 1 回戦 10月 1 日

秋田 2 - 1 福井  
 ○鈴木④ メ - 山田③  
 中村⑤ - メ 高嶋④○  
 ○堀川⑦ ドコ - 荒木⑥

## 2 回戦 10月 1 日

秋田 3 - 0 千葉  
 ○鈴木④ コメ - 伊沢④  
 ○中村⑤ ココ - ド 古室⑤  
 ○堀川⑦ コメ - コ 黒川⑤

## 準決勝 10月 2 日

秋田 2 - 1 東京  
 ○鈴木④ メ - 石突④  
 中村⑤ - メ 庄島⑤○  
 ○堀川⑦ メメ - 牛木⑦

## 決 勝 10月 2 日

秋田 2 - 1 福岡  
 鈴木④ - コ 戸込③○  
 ○中村⑤ メ - 松本⑥  
 ○堀川⑦ ココ - 内海⑥

## 成年男子【男鹿市総合体育館】

## 1 回戦 10月 2 日

秋田 5 - 0 沖縄  
 ○金森④ メメ - 本部③  
 ○土田⑤ コ - 友利④  
 ○辻村⑦ メ - 比嘉⑥  
 ○貝田⑦ メコ - 尾本⑥  
 ○鎌田⑦ コメ - 屋比久⑦

## 2 回戦 10月 2 日

秋田 3 - 2 東京  
 ○金森④ ド - 櫻井⑤  
 土田⑤ - ド 内村⑤○  
 辻村⑦ - ド 平尾⑦○  
 ○貝田⑥ コメ - 栗田⑧  
 ○鎌田⑦ ドメ - メ 遠藤⑧

## 3 回戦 10月 3 日

秋田 4 - 1 新潟  
 ○金森④ コ - 高橋④  
 ○土田⑤ コ - 礎 ⑤  
 ○辻村⑦ メド - コ 藤塚⑥  
 ○貝田⑥ ドメ - 平野⑦  
 鎌田⑦ コ - メメ 白井⑦○

## 4 回戦 10月 3 日

秋田 4 - 0 大阪  
 ○金森④ コ - 八橋④  
 ○土田⑤ ココ - メ 寺本⑥  
 ○辻村⑦ メメ - 佐野⑥  
 ○貝田⑥ メ - 戸高⑦  
 △鎌田⑦ - 石塚⑧△

## 準決勝 10月 3 日

秋田 3 - 2 静岡  
 ○金森④ メメ - 夏目④  
 ○土田⑤ ド - 高坂④  
 辻村⑦ - コ 吉留⑦○  
 ○貝田⑥ メ - 小山⑦  
 鎌田⑦ - ドコ 安永⑧○

## 決 勝 10月 3 日

秋田 3 - 1 大分  
 ○金森④ 反 - 西村③  
 ○土田⑤ ドメ - 宇都宮⑥  
 ○辻村⑦ メ - 堤 ⑦  
 △貝田⑥ メ - コ 笠谷⑦△  
 鎌田⑦ - ココ 江口⑧○

国体剣道競技の運営に携わって

国体推進運営委員長

木内直幹



平成十七年度秋田県剣道連盟の評議員会、理事会終了後の五月、秋田わか杉国体剣道競技の国体推進運営

委員長の委嘱を受けました。一瞬、私にこのような大役を果たせるの大きな戸惑いとプレッシャーを感じたものでした。当初、運営委員は九名のスタッフで進みましたが、それぞれ仕事を持っている関係から、なかなか人数も集まらずスムーズな流れとはなりません。秋田県よりの諸会議伝達の中から、競技団体としての秋田県剣道連盟の推進方策をしっかりと見極めることと、開催地である男鹿市実行委員会と連携を取ることが一番大切であることを確認し、一つ一つの課題を緻密に解決しながら進めていくこととしました。その手はじめとして、平成十七年九月、男鹿市で行われた東北ミニ国体のリハール、同年十月に開催された岡山国体の視察研修、平成十八年六月、男鹿市で行ったリハール大会としての東北高等学校剣道選手権大会、兵庫国体の視察研修、またそれぞれ別の大会において全日本剣道連盟よりご指導をいただいた運営手法、留意事項など実行するための知識が次第に集積されていきました。運営委員として心を砕いたのは競技役員、補助員必携の作成でした。事務局長の吉田雅宏先生と何度も手直しをし

ながら、大会直前の九月に入ってからようやく出来上がったものでした。試合場、競技用物品については事前に適確に指示されていたことから問題はありませんでしたし、心配していた試合結果の流れ、周知についても、記録、速報、報道、送受信、各委員のチームワークにより、見事にのり切りしました。競技役員、補助員全員の協力のもとに行ったことが成功に結びついたものでした。大会最終日、成年男子で秋田県の優勝が決まった瞬間、隣りの席にいた開催地剣連（男鹿市潟上市南秋田理事長）で実行委員の淡路芳和先生とガッチリと握手をしていました。ホッとしました安堵感と満足感で一杯でした。男鹿市国体実行委員会の方々には大変お世話になりました。特に担当の山本忠明主任、今野誠職員には心から感謝、感謝です。ありがとうございます。



四十六年振りの快挙

秋田県剣道連盟相談役

範士八段 加藤正治



秋田まごころ国体が湯沢で開催され、少年男子・成年男子の二部制で、共々準優勝し、天

皇杯に輝いた当時のことが思い出されます。そのまごころ国体以上の成果を目標とし、県民一丸となって、誠意とご声援・ご協力を得ながら、努力を重ねようと、県剣道連盟が次のように目標を掲げた。  
○意識の鼓舞・一致団結する。  
○尚武秋田の伝統の元「やる気」を持って頑張る。  
この目標が立派に開花したものと存じております。

今回、男鹿市の剣道会場で達成された、少年男女・成年男女の全種別完全優勝は、平成九年に四種別になってからは、平成十七年の岡山県以来、二度目の快挙であります。何んと言っても大万歳の歓喜であったと存じております。私ごとではありますが、国体三十三回出場の思い出の中で、湯沢まごころ国体では五戦全勝し、特に準決勝で熊本と対戦して、体専当時の同級との勝負では、天才と言われた石原勝利選手（熊本県剣連会長）との対戦で面一本で勝たしていただいたことが、今もって忘れることの出来ない

い一生の思い出となっております。人生修業の中で剣道というきずなが今日までも生かされているものと思っております。選手の皆様、県剣連の皆様様の一層のご健勝とご活躍、ご多幸をご祈念申し上げます。

編集後記

平成になって早二十年を迎えた。昨年五月の秋剣連総会において、国体後には全種別完全優勝特別記念号を刊行したいと述べたが、その通りの快挙を成し遂げることができた。正に軍神毘沙門天が憑いたかの如くであった。

この特別記念号には、全剣連加賀谷誠一副会長はじめ、日頃県連が大変お世話になっている名士の方々にお願いの玉稿を賜った。厚く御礼申し上げます。更に歴史に残る名勝負を展開した選手の数名に、臨場感あふれる原稿を依頼した。また、陰で懸命に国体運営などを支えた事務局員の奮闘も読み取って頂きたい。

右の記事によって、会員の皆さんが改めてこの偉業を振り返り、明日の尚武秋田の一層の発展を県民と共に誓い合って頂ければ、編集の労苦も報われるであろう。

広報誌刊行間近の一月十二日深夜、我県連の大御所内山眞先生が逝去された。これからの秋田県剣道界の興隆を確信されたかのような安らかなお顔であった。(ON記)

編集 秋田県剣道連盟広報委員会  
委員長 大森 宣昌